

## コラム 54ー 大山海軍中尉事件

通州事件の10日後、1937(昭和12)年8月9日、上海で海軍陸戦隊の大山勇夫海軍中尉と斎藤与蔵一等水兵が、上海市内を陸戦隊の自動車で視察中、中国保安隊に惨殺されるという大山海軍中尉事件が起きます。

大山中尉は、自動車のわきで多数の機関銃弾を浴びて殺された上に、青竜刀で頭を真っ二つに割られるという凄惨なものでした。中国側の上海保安隊司令官は、中国共産党の大物スパイ張治中であり、大山事件は張治中が仕組んだものであることを、故鈴木明氏が、「新南京大虐殺のまぼろし」で明らかにしています。また、「マオ」の著者であるユン・チアン氏によれば、張治中は「史上最も重要な働きをしたスパイであり、事実上たった1人で歴史の方向を変えた可能性が大きい」と形容しています。